

(様式1)

令和6年度自己評価表

学校名 愛媛県立八幡浜工業高等学校

学校番号 35

<p>教育方針</p>	<p>教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的國家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。</p>	<p>重点努力目標</p>	<p>基礎・基本の定着と、意欲を持って心豊かに生きる生徒の育成 -思いやる心 自律の心 挑戦する心- 『ものづくりから人づくり・夢づくり、安心・安全で信頼される学校づくり』 1 確かな学力を身に付けさせる学習指導の推進 2 一人一人を見つめた温かい生活指導の推進 3 個性豊かな人間性の育成と特別活動の充実 4 職業観・勤労観の育成と実践的キャリア教育の推進 5 地域を愛し行動できる人間の育成(ボランティア活動の推進)</p>
-------------	---	---------------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学校	<p>教育活動の公開と情報発信</p>	<p>各種「たより」の家庭への持ち帰らせや掲示板への貼り出し、ホームページの内容を充実させることにより、教育活動の情報を発信する。 (八工だより発行・掲示板掲示回数) 各 A:12~10回 B:9~7回 C:6~4回 D: 3~ 1回 E: 0回 (配布物家庭持ち帰り率) A:75%以上 B:74~60% C:59~45% D:44~30% E:30%未満</p>	<p>B</p>	<p>「八工だより」を毎月発行し家庭へ持ち帰らせ、掲示板への貼り出しもできている。しかし、発行が遅れた月が数回あったので反省している。 家庭持ち帰り率としてはAに該当すると思われるが、確実に生徒全員が配布物を保護者に渡せてはいない。</p>	<p>毎月の「八工だより」を月初めに発行することを徹底するとともに、保護者には各種「たより」の発行について機会をとらえて周知し、届かない場合は子どもに催促していただくように今後ともお願いしていく。 生徒には、自分が目を通すことと、保護者にも必ず渡すことの指導を継続していきたい。 ホームページの内容や更新を充実させ、情報発信に努めていきたい。</p>
	<p>保護者の意見反映</p>	<p>PTA総会や理事会、保護者懇談会、行事等の保護者参加率向上を図り、保護者の意見・要望を把握して、学校改善に生かす。 (PTA総会出席率) 各 A:30%以上 B:29~20% C:19~15% D:14~10% E:10%未満</p>	<p>A</p>	<p>出席率が129世帯中40世帯で31.0%であり、目標は達成できた。</p>	<p>更なる出席率向上を目指し、啓発活動等の工夫を試みたい。</p>
経営	<p>図書館環境の整備と充実</p>	<p>読書啓発活動を推進し、生徒希望図書購入等により、図書館環境の整備に努め、年間一人当たりの図書貸出し冊数4.0冊を目指す。 「図書館通信」を年10回発行する。 (図書貸出冊数年間1人当たり) A:4.0冊以上 B:3.9~3.0冊 C:2.9~2.0冊 D:1.9~1.0冊 E:1冊未満</p>	<p>B</p>	<p>新刊図書選定、「図書館通信」の発行を例年通り行ったり、委員会活動を充実させたりして、読書に親しむ啓発活動に努めた。 年間1人当たりの貸出し冊数は2.3冊(1月14日現在)であり数値目標には届かなかったが、教科の授業の調べ学習等の場としての役割を果たせた。</p>	<p>新刊図書については、工業系の物を増やしていきたい。 そして、教科の授業、ホームルーム活動、部活動等における調べ学習やミーティング等の活動の場として使いやすい環境を整えていきたい。</p>
	<p>教職員の業務改善</p>	<p>ワーク・ライフ・バランスの適正化を図る。教職員の働き方改革を進め、休暇の取りやすい職場環境を整える。 (時間外勤務時間80時間(月)以下の教職員の割合・有休年10日以上の取得率・ワーク・ライフ・バランスがとれていると感じる教職員の割合) 各 A:90%以上 B:89~70% C:69~50% D:59~40% E:39%以下</p>	<p>B</p>	<p>時間外勤務時間80時間以下の教職員の割合及びワーク・ライフ・バランスがとれていると感じる教職員の割合は前年度より増加しており、昨年度から取り入れた「No残業デー」「勤務時間の電話対応のメッセージ化」の実施等の方策の成果が表れていると思われる。 ただし、年次有給休暇10日以上取得した教職員数は減少しているため、仕事量の偏りがないか、特定の教職員に仕事が集ましていないかなど、確認をしていく必要がある。</p>	<p>今後は更なる校務分掌の精選や部活動の在り方の改善等を図ることで、無理のない教職員の職場環境の整備を進めていきたい。 また、教職員一人一人の仕事量を的確に把握するとともに、本人の希望についても確認しながら、仕事の分担の割り振りを適切に行っていきたい。</p>

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

学 習	教科指導の充実	<p>生徒による授業評価を基に教科指導の課題について教科会で検討し、授業改善を図る。相互授業研修期間を含め、校外外で一年間5回以上、授業参観や教科の研修を行い、授業力向上に努める。</p> <p>(授業の理解度(ポイント)) A:3.0以上 B:2.9~2.7人 C:2.6~2.0人 D:1.9~1.3人 E:1.2~1.0人</p> <p>(相互授業研修参観回数(年)) A:5回以上 B:4~3回 C:2回 D:1回 E:0回</p>	A	<p>授業評価アンケートの授業の理解度の項目において、4よく理解できるが55%、3だいたいそう思う38%、2あまり思わない5%、1思わない1%であり、全体の平均値は3.5となった。</p> <p>相互授業研修の参観回数は、平均5.5回であった。</p>	<p>今後とも、教科指導の充実に努め、相互参観授業だけではなく、他校の学校訪問研修や授業公開への参加を促すとともに、ICT機器の活用を促進し、授業力の向上に努めていきたい。</p>
	指導	<p>定期的に家庭学習時間調査を行い、家庭と連携し、学習習慣の定着を図る。定期的実施しているエスタブリッシュメントテストの充実を図る。</p> <p>(家庭学習時間(平日1日当たり)) A:1時間以上 B:59~45分 C:44~30分 D:29~15分 E:15分未満</p> <p>(家庭学習時間(テスト期間1日当たり)) A:3時間以上 B:3~2時間 C:2~1時間 D:1~0.5時間 E:0.5時間未満</p>	C	<p>家庭学習時間(平日1日あたり)の平均値は40分であった。</p> <p>家庭学習時間(テスト期間1日あたり)の平均値は105分であった。</p> <p>エスタブリッシュメントテスト(小テスト)も国・数・英で実施しているが、平日の勉強時間だけではなく、定期考査期間中の学習時間も少ない結果であった。</p>	<p>近年、生徒の学習意欲が低下していると感じていたが、それを裏付ける結果となった。</p> <p>特別支援の必要な生徒も入学しており、日頃の授業での学習指導の在り方や課題の出し方、個別指導の在り方など、学習の指導方法に一層の工夫を図っていきたい。</p> <p>また、日頃の学習の成果が、結果に結び付くような考査問題の出題方法についての研さんに努めていきたい。</p>
工 業	実践的技術者としての知識・技術	<p>各種資格取得・検定試験合格個数(3年間)6個以上を目指す。</p> <p>A:6.0個以上 B:5.9~4.0個 C:3.9~2.0個 D:1.9~1.0個 E:1.0個未満</p>	B	<p>各種資格取得・検定試験合格個数は、5.3個で、目標は達成できなかった。</p>	<p>各種資格取得・検定試験合格個数は、機械土木工学科が4.4個、電気技術科が6.2個であり、学科によって多少差がある。</p> <p>傾向として、資格・検定試験に挑戦しない生徒、受験しても不合格となる生徒が多くなってきている。合格数を増やすためにこれまで以上に補習時間を確保して指導していきたい。</p>
	教育	ものづくりの推進	<p>ものづくりコンテスト等での入賞を目指す。地域と連携しながら、校外の「ものづくり」に関わる行事に参加する。活動の成果に対し、達成感が得られるよう発表会を行う。</p> <p>(ものづくりに意欲的に取り組めた生徒) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満</p> <p>(公開講座・出前授業等参加1人当たりの回数) A:1回以上 B:~3/4回 C:~1/2回 D:~1/4回 E:1/4回未満</p>	A	<p>高校生ものづくりコンテストは、電気工部門・測量部門に参加した。測量部門では、県大会2位、四国大会優勝となり、11月に全国大会に出場した。WROについては、中四国大会優勝、全国大会優勝し、世界大会でも優勝した。</p> <p>その他の各種大会にも出場し、成果が得られた。</p> <p>そして、竹あかりプロジェクトや中学生対象のものづくり教室などの行事も予定通り実施した。</p> <p>また、課題研究発表会やインターンシップ発表会等を各科で実施し興味関心の向上に努めた。</p>
特 別 活 動	ボランティア活動の推進	<p>各教室のボランティア活動関係の掲示板を充実させ、参加する意義を教えるとともに意識の啓発にも努め意欲的な参加を目指す。</p> <p>(ボランティア活動等の参加1人当たりの回数) A:1回以上 B:~3/4回 C:~1/2回 D:~1/4回 E:1/4回未満</p>	A	<p>教員の呼び掛けに対して意欲的に参加する生徒が多く、ボランティア等の活動(全33回)に延べ491名の生徒が参加した。</p> <p>従って、令和6年度の実績は3.8回となった。</p>	<p>啓発活動をより一層充実させて生徒の認知度を更に高めるとともに、参加する生徒数を増やしていきたい。</p> <p>また、生徒が地域に貢献しているという認識の下で様々な活動をしていく指導をしていきたい。</p>
	学校行事の充実	<p>充実した生徒会の活動となるよう委員会を10回以上開催し、積極的に参加したくなるような学校行事にする。</p> <p>(生徒会委員会開催数(年)) A:10回以上 B:9~7回 C:6~4回 D:3~1回 E:0回</p>	A	<p>昨年度に引き続き、一般公開の行事が開催でき、多くの方々に来校していただいた。学校行事を成功に導くために、地域への周知の方法やスムーズな運営の在り方、自発的な企画運営など、活発であった。</p>	<p>来年度は工業高校として1・2・3年が揃う最後の年となる。これまで習得したノウハウを活用するだけでなく、よりよい学校行事にするための方策を常に考えつつ活動を継続していきたい。</p>

特別活動	部活動の充実	生徒自ら意欲的に取り組めるような魅力ある部活動にし、部活動加入率95%以上を目指す。 (部活動の加入率) A:95%以上 B:94~80% C:79~65% D:64~50% E:50%未満	A	今年度は運動部80名、文化部64名、計144名が部活動に加入している。そのうち15名は2つの部を掛け持ちして活動している。 昨年度よりも全校生徒数が減少しているが、レスリング部の県総体での団体18連覇や電気技術部のWRO世界大会での優勝、機械土木研究部(測量)の全国大会出場など、各々が大きな成果を残している。	令和8年度の新校設立及び統合により、部活動の形態は以前とは若干異なるが、これまで同様に生徒たちが素晴らしい結果を残せるように、しっかりと支えて指導していきたい。
生徒	基本的な生活習慣の確立	校門指導、教科指導、部活動指導を通して挨拶を励行させる。頭髪指導を徹底し、本校生徒としての品位を失わないような身だしなみを心がけさせる。 (挨拶のできる生徒) A:75%以上 B:74~60% C:59~45% D:44~30% E:30%未満 (頭髪指導の合格率) 各 A:75%以上 B:74~60% C:59~45% D:44~30% E:30%未満	B	挨拶は、教職員・生徒の評価は高く、校門指導や教科・部活動での指導の成果が表れている。少数ではあるが、登校時の挨拶に元気のない生徒もおり、家庭の協力も必要であると考え。頭髪服装については、全体の合格率の平均が83.4%であり、上級生になるほど合格率も高く、校内での大きな乱れはなかった。 ある一定の成果が見られているが、規程については社会の動きに柔軟に対応していきたい。	挨拶は、これまでの校門指導を中心とした挨拶運動を専門委員会や、保護者の協力を得ながら継続していきたい。 これまで以上に家庭との連携を密にし、身だしなみを含めた基本的な生活習慣が身に付くように保護者に協力をお願いしていきたい。
	指導	規範意識と社会性の醸成	交通安全教室、非行防止教室等を通して生徒の規範意識を育成する。 (交通事故発生件数(年)) A:0件 B:1件 C:2件 D:3件 E:4件 (特別指導以上の問題行動発生率(年)) A:0% B:1% C:2% D:3% E:4%	C	交通事故に関しては今年度の発生件数はなく、交通安全についてはおおむね良好である。ただ、交通ルール・マナー、ヘルメットの着用については、命にかかわる問題であるので今後も100%を目指していきたい。 生徒の問題行動については3.8%で、落ち着いている学年もあるが、問題行動が集中している学年もあり、日頃より規範意識をより高める指導が必要である。
人権	人権啓発の推進	人権・同和教育ホームルーム活動や講演会、「人権だより」などを通して人権尊重の意識を高める。 内容の充実した「人権だより」を年8回発行する。 (「人権だより」発行(年)) A:8回以上 B:7~5回 C:4~3回 D:2~1回 E:0回	B	ホームルーム活動や人権集会、外部講師による人権講演会、人権委員夏季研修会などに積極的に参加し、人権意識を高めることができた。 「人権だより」の発行回数は、目標を達成できなかったの、人権委員の継続した取組を進めていきたい。	人権講演会や人権集会以外の日々の取組の中で人権啓発の機会を増やしていきたい。 「人権だより」は日々の取組についての紹介など内容の充実を図りたい。人権委員会の活動内容をより効果的なものに改善し、有意義な活動報告ができるようにしていきたい。
	教育	いじめをなくする取組	いじめの生徒、いじめられる生徒ゼロを目指す。 いじめに関するアンケートを年2回実施し、教職員全員でいじめの防止及び早期解決に取り組む。 (生徒の相談体制の充実度) A:90%以上 B:89~80% C:79~70% D:69~60% E:59%以下	A	1回目の調査では0件であったが、2回目の調査では1件の記述があった。1年前の轍を踏み、今年度は早期対応を心掛け、実践できた。また、今年度からSLAが配置され、個別の対応にもつながり、教職員の情報共有や連携を図ることができた。
進路指導	就職指導の充実	キャリア教育を充実させることにより、望ましい職業観・勤労観を育成する。 就職試験の1次合格率90%以上を目指す。 (就職試験の1次合格率) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満	B	各科・各学年における職場見学や進路ガイダンス、3年次には応募前見学を行い、生徒の職業観や勤労観の育成を図ることができた。 求人状況は良好で、生徒個々の希望に沿った就職内定を得ることができた。学校紹介による就職試験の1次合格率は100%であった。	今後も校内での進路情報をこまめに発信するほか、公的機関や行政の主催するガイダンスや企業説明会を積極的に活用し、生徒の職業理解を深め、進路選択の幅を広げていく。 生徒個々の能力や適性を見極めて企業とのマッチングを図り、1次合格率の上昇および早期離職率の低下に努めていきたい。

進路指導	進学指導の充実	生徒一人一人の希望に合わせた進路相談や進学情報の発信を積極的に行い、大学・専門学校などへの第1志望合格率90%以上を目指す。 (大学・専門学校などへの第1希望合格率) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満	A	オープンキャンパスへの参加や担任・部活動顧問との進路相談により志望校の研究を行い、個々の生徒の希望に沿った進路を実現することができた。第1希望の学校への合格率は100%であった。	生徒の気持ちを尊重しつつ、なるべく早めに志望校や受験形態が決定し、余裕を持って受験対策を進められるように、生徒・保護者に分かりやすい情報提供に努めていきたい。
学校保健	健康管理と保健指導の充実	健康診断結果の的確な把握と適切な指導を行うとともに、具体的な指導を計画し基本的生活習慣の確立を図る。 「保健だより」を毎月1回発行する。 (保健だより発行回数) A:12~10回 B:9~7回 C:6~4回 D:3~1回 E:0回	A	健康診断の結果を通じて、生徒が自他のからだの健康に注意すべき点について、分かりやすく指導した。 歯科検診後に学校医と協力し、検診結果等を臨時の「保健だより」で保護者に通知し、家庭と連携して健康の保持増進に努めた。	健康診断後の事後措置において、受診勧告、経過観察を必要とする教職員、生徒に対して適切な指導を継続的に行っていききたい。 また、各学年に1回は外部講師を招いて、成長段階に応じた保健指導を充実させていきたい。
学校安全	安全意識の向上	様々な非常変災に対応できるよう、避難訓練を年3回実施することにより、生徒・教職員の安全に対する意識向上を図る。 (危機管理模擬訓練(年)) A:3回 B:2回 C:1回 D:-1回 E:0回 (予告なしの防災訓練(年)) A:1回以上 B:-1回 C:-2回 D:-1回 E:0回	A	本年度も(予告なしの防災訓練1回を含め)4回の防災訓練を実施した。予告なしの訓練でも生徒はしっかりと行動することができると、生徒・教職員の安全に対する意識の向上が見られた。	今後も緊張感のある訓練を実施し、教職員・生徒の防災に対する意識の向上を図っていききたい。
学校行政	校舎・校庭・教室の環境	校舎や校庭・教室の美化・整理整頓に努める。 (校舎・校庭・教室の環境整備度) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満	B	校内巡視により危険箇所を把握し早急に修繕を行ったが、財源の関係で一部修繕できていない箇所はあるものの、おおむね校内の美化・整理整頓に努めることができた。 また、前庭等の植木剪定や校内水路の清掃を行い校内美化に努めた。	生徒が安全で安心した学校生活が遅れるように、引き続き生徒と全教職員で環境整備や美化に努めていきたい。
	丁寧な接遇の励行	丁寧な来客対応・電話対応に努める。 (丁寧な接遇の励行達成度) A:90%以上 B:89~75% C:74~50% D:49~30% E:30%未満	A	学校外からの苦情等は特になく、丁寧な来客対応及び電話対応に努めることができた。	保護者や地域の方等、相手の立場に立った丁寧な接遇を引き続き心掛けたい。